

(様式3)

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策および補充指導等の計画

1年

小14 練馬区立仲町小学校

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
国語	<ul style="list-style-type: none"><li>○ひらがなを繰り返し指導しているが、習得が不十分な児童が目立つ。</li><li>○助詞の使い方、濁音・半濁音、拗音の定着を図ったが、まだ不十分である。</li><li>○文章を書くことに苦手意識がある児童がいる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○個別に指導する時間を設け、繰り返し復習をし、他教科でも繰り返し指導をしていく。</li><li>○自分の書いた文章を読み返させ、拗音・促音等の定着を図る。</li><li>○文を書く機会を様々な学習活動に取り入れて授業を行う。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○本の読み聞かせを継続的に実施する。</li><li>○音読カードを活用し、興味・関心をもたせる。</li><li>○図書館支援員と協力して、「おすすめの本 20冊」に取り組み、読書への意欲を高める。</li><li>○文章を書くことに苦手意識をもたせないように、思いを聞き取りながら文章化するなどの支援を行う。</li><li>○文字や言葉、文章を書く活動では、児童の実態に応じて個別指導を行う。また、定着していない児童には、短い文章を書く活動を多く取り入れていく。</li></ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"><li>○問題文の意図を十分に読み取ることができずに、答えを求められない児童が見られる。</li><li>○問題形式への慣れが不十分である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○問題に取り組む前に「聞かれていること」「分かっていること」を明確にする。</li><li>○問題場面を絵や図で表し、思考の補助として取り組んでいく。</li><li>○問題文を読み考える時間を多く取る。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ICT教材にある図や絵の画面を活用し、問題解決の支援につながるようにする。</li><li>○TTを生かして、児童の実態に応じて、個別指導を行う。宿題にも補充的な問題を取り入れ学習内容の定着を図る。</li><li>○一斉問題を解決した児童が取り組めるように、発展的な学習の問題を用意する。</li></ul>
生活	<ul style="list-style-type: none"><li>○入学前の生活経験に開きがあり、指導が通りづらい場面がある。</li><li>○子供たちの気づきを軸にして、授業を発展させていくことが難しい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○時間に余裕をもって取り組み、スモールステップで丁寧に指導を行い、経験を積みせていく。</li><li>○スタートカリキュラムを活用して、幼保での学びを4月に生かせるようにする。</li><li>○気づきを発表したり、友達と交流したりして深めるようにする。</li><li>○幼保小のつながりを意識した計画を立てる。</li><li>○児童の気づきや思いを基に、学習計画を立てていくようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○カードには、見付けたことやしたことなどの事実だけでなく、諸感覚を働かせて感じたことや気付いたことなどにも目を向けてかくよう指導する。</li><li>○他教科でも、発表や文章を書く活動を多く取り入れ、相手に伝える経験を増やしていく。</li></ul>

(様式3)

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策および補充指導等の計画

2年

小14 練馬区立仲町小学校

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
国語	<ul style="list-style-type: none"><li>○1年時に原稿用紙の書き方の指導は行ったが、鉤括弧の使い方や改行などがなかなか身に付けることができず不十分である。</li><li>○感想や読み取りにおいて感じたことを表現できる児童が少ない。</li><li>○平仮名やカタカナがまだ確実に身に付いていない児童がいる。</li><li>○学習した漢字の読み書きが確実に身に付いていない児童がいる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○教材を視写するなどして、正しい表記(句読点、鉤括弧、助詞)について意識させる。</li><li>○自分の文を読み、正しく書けているか確認する学習を行う。</li><li>○語彙を増やしたり、使ったりする機会を増やす。</li><li>○定期的に平仮名やカタカナ、漢字の振り返りを行う。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○原稿用紙を使って文を書く活動を積極的に取り入れる。</li><li>○日記を書く習慣をつける。</li><li>○言語を豊かにするため、読書指導を積極的に行う。授業はもちろん、朝読書や家庭学習でも読書活動を取り入れていく。</li><li>○宿題の漢字学習で、間違いやすいところを把握し、指導していく。</li></ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"><li>○ひき算の計算力に差がある。位の概念が未熟なため、筆算の式を書く際に間違える児童がいる。</li><li>○文章を読み取る力が弱く、正しく立式できない児童がいる。個別指導が必要な児童が各クラスに数名ずついる。</li><li>○時計の学習で、時刻を読むことはだいたいできるが、午前・午後を使って考えたり、時間と分の関係を表したりする問題を解けるまでの練習数が足りなかった児童が多い。</li><li>○長さ、水のかさの単位の理解が難しい児童が多い。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○児童の理解や処理のスピードに合わせて、ワークシートを活用したり、課題をノートに貼れるようにプリントを用意したりして、学習内容に集中できるようにする。</li><li>○文章の大切なところに線を引くなど分かりやすく要点を整理してから立式させる。</li><li>○普段の生活の中で「午前〇時」や「午後〇時」「〇時間後」など意図的に行い、学習が終わっても生活の中で繰り返し指導する。</li><li>○長さ、水のかさの単位の理解を促すように普段から問いかけや実体験を多くしていく。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○基礎・基本を確実に身に付けるため、計算ドリルやプリントに繰り返し取り組み、習熟を図る。</li><li>○朝の時間を活用し、学習内容の定着を図る。</li><li>○文章題では、具体物や半具体物を操作しながら意味を考えさせていく。</li><li>○算数の授業以外でも、かさや長さの見積もりや予想、かさや長さを測る活動を生活の中に生かしていく。</li><li>○習熟度別形態の授業を取り入れ、児童の実態に応じた指導を行う。</li></ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童同士で学び合う機会を設けることで、理解の定着を図る。</li> <li>○学期に1回ずつに東京ベーシックドリルの診断テストを行う。また、それを基にプリントを使って、前学年の学習の復習を行う。</li> </ul>
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観察や体験の中での変化や様子への気づきがまだ不十分である。</li> <li>○活動を通して気付いたことや考えたことを表現することが難しい児童がいる。</li> <li>○自身の住んでいる地域についてよく知らない児童が多い。地域の方々と関わる活動や校外での学習を積極的に取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の気づきを取り上げ、広めていくとともに、児童の気づきを引き出す言葉かけをする。また、友達と交流する場を大切にする。</li> <li>○様々な発表形式で思いを表現できるように指導する。また、児童の多様な表現方法を取り上げ、広めていくことで様々な表現方法を使えるようにしていく。</li> <li>○地域と連携を取りながら、計画的に校外学習をすすめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○カードに、見付けたこと、したことなどの事実と児童の思いを書く指導をする。</li> <li>○タブレットの写真機能も活用し、思い出したり、比べたりしやすくすることで、気づきを表現できるようにする。</li> <li>○他教科でも、発表したり文章を書いたりする活動を行い、自分の思考を表現する機会を増やす。</li> <li>○実際に町を歩き、地域の方々に話を聞く中で、気付いたり、感じたりしたことを調べ、発表する機会を設ける。</li> </ul>

## (様式3)

## 指導方法の課題分析と具体的な授業改善策および補充指導等の計画

3年

小14 練馬区立仲町小学校

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的指導計画
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○習った漢字を確実に身に付け、文章の中で活用することが難しい。</li> <li>○文意のつながりを考えた接続語を使いながら文章を書くことが、まだうまくできていない。また、5W1H を使いつつ、簡潔な文章を書くことが苦手である。</li> <li>○本文から質問された内容を読み取って記述する力が、まだ不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小テストや「漢字の広場」など復習する時間、反復する時間を確保する。習った漢字を使うよう、日常的に助言する。</li> <li>○視覚的、聴覚的な覚え方を補助的に説明する。</li> <li>○基本的な文型や構成、効果的な表現、推敲を指導するとともに、生活に密着した題材や書く必要感のある題材を設定し、文を書く機会を増やす。</li> <li>○質問の意図を把握し、本文から確実に抜き取る作業を繰り返し行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭学習での反復練習を推進し、各自の練習方法について工夫させ、習慣化させる。</li> <li>○朝のモジュール学習を活用し、学習内容の定着、既習内容の復習を行う。</li> <li>○日常の学習活動の中で、国語を全ての教科の基本として位置付け、様々な場面で言葉を通して考えたり表現したりする力を身に付けさせる。</li> <li>○読み取りの問題を、朝学習や宿題に取り入れる。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○習熟度別に指導することで基礎・基本はある程度の定着が見られるようになったが、計算力や応用問題の理解力には個人差がある。</li> <li>○文章を読み取る力が弱く、正しく立式できない児童がいる。個別指導が必要な児童が各クラスに数名ずついる。</li> <li>○理解力・処理時間に個人差があり、時間の配分が難しい。</li> <li>○自分の考えを相手に分かりやすく説明することが苦手である。</li> <li>○時刻と時間の理解が難しい。特に時間を求める問題を苦手とする児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○習熟度別学級を編成し、個人差に対応する。コースによって問題を変えるなど、能力差に応じた指導を行う。</li> <li>○文章題については、問題文の読み取り・図・絵・立式・答え・確認などの方法について個別にカード等を活用し丁寧に指導する。</li> <li>○自分の考えを主張できるように、グループで対話させたり、誰かの意見に加えて説明させたりし、繰り返し発言する場を積み重ねていく。</li> <li>○実際に時計を操作したり、図に表したりするなど理解の程度に応じた手立てをとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ドリルやプリント、タブレットを使って反復練習をさせ、家庭学習での取組を習慣化する。</li> <li>○理解が十分でない児童については、休み時間や夏季休業中の補充教室などを通して個別指導を行い、技能の習熟、知識の定着を図る。</li> <li>○習熟度の高い児童には、発展的な問題に取り組むよう指示する。</li> <li>○朝のモジュール学習を活用し、学習内容の定着を図る。</li> <li>○学期に1回東京ベーシックドリルの診断テストを行う。また、それを基にプリントを使って、前学年の学習の復習を行う。</li> </ul>
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な地域の人や施設について、多様な立場があることを理解した上で、課題を見付ける力を伸ばしたい。</li> <li>○問題の解決に向けて、進んで学び合おうとする力を伸ばしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見学などの体験学習を学習過程に組み込む。</li> <li>○考えや思いを自由に記録したり今までの学習を振り返ったりできるように、学習ノートを用いて学習を進める。</li> </ul>	

(様式3)

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策および補充指導等の計画

4年

小14 練馬区立仲町小学校

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
国語	<ul style="list-style-type: none"><li>○話形を示すなどの指導をしているが、自分の考えを整理して、伝えたい思いや考えが相手に伝わるような話し方が定着していない。</li><li>○新出漢字は、宿題などで学習を進めているが、定着は個人差が大きい。</li><li>○文章問題の読み取りができない児童が見られる。また、話を聞き、内容を確実に理解することが難しい児童がいる。</li><li>○文章の中で、助詞、促音、過去形・現在形を正しく使えていない児童がいる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○主語・述語を明確にして話すようにさせ、聞く側も、相手の言いたいことや自分の考えとの同意点、差異点を考えながら聞くように指導していく。</li><li>○漢字の小テストを随時行って意識付けをし、まとめのテストでは合格点を設けて粘り強く取り組み合格する達成感を体験させる。</li><li>○段落ごとに重要語句や接続語に注意して、大事な事柄を押さえながら繰り返し音読を行う。</li><li>○話の中心的な事柄はどこなのかを確実に理解できるように全体で確認しながら学習を進める。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○朝の会の1分間スピーチなど話をする機会を設け、メモを用意してもよいことを指導する。</li><li>○朝のモジュール学習を活用し、学習内容の定着を図る。</li><li>○図書館の学級図書貸出を利用したり、読書の時間をこまめに設けたりして、読書活動を充実させる。</li><li>○いつも「なぜそう考えるか」と根拠を意識させたり、「どうしてそう考えたのか」と理由を意識させたりして、物事を考える習慣を付けるよう指導する。</li><li>○单元ごとに漢字テストを行う。また、学期に2回まとめの漢字テストを行う。</li></ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"><li>○授業で学習したときには理解できたことも、時間が経つと忘れ、定着できない児童がいる。</li><li>○既習のかけ算やわり算などが身に付いていない児童がいる。</li><li>○少人数指導を行うことで効果を上げているが、個人差が大きく個々に対応しきれない時もある。</li><li>○知識として身に付いているが、方法や理由を説明できない児童がいる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○授業の始めなどに既習内容の復習を継続して行う。</li><li>○操作活動を取り入れたり、実際に目で見たりすることができるような教材を活用したりして、計算する大切さや実感を伴った理解ができるようにする。</li><li>○自力解決が難しい児童には、既習事項やヒントカードを提示し、個に応じた支援を行う。</li><li>○考えを図や式、言葉で表す活動を随時取り入れ、思考力・表現力を伸ばせるようにする。</li><li>○練習問題は知識・技能だけでなく、思考力を伸ばせるような問題も取り入れる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○仲町っこタイムや家庭学習で、タブレットも活用しながら反復練習に取り組ませていく。</li><li>○習熟度別の形態の授業を活用し、児童の実態に応じた取り組みをする。</li><li>○学期に1回ずつ東京ベーシックドリルの診断テストを行う。また、それを基にプリントやタブレットを使って、前学年の学習の復習を行う。</li><li>○レディネステストの結果を基に習熟度別指導を行い、学習の定着を図る。</li><li>○单元末などにそれぞれが問題を作り、児童どうしで解き合う学習も取り入れていく。</li></ul>

総合的な学習 の時間	○身近な地域の人や施設について、多様な立場があることを理解した上で、課題を見付ける力を伸ばしたい。 ○問題の解決に向けて、進んで学び合おうとする力を伸ばしたい。	○課題からはずれた活動にならないように、教師がファシリテーターの役割を担い、課題に立ち返り進めていく。 ○体験活動をしてから地域安全マップへ繋げることで学習したことを地域に還元する動機付けを行う。 ○自分で体験したことや自らインタビューしたことなどを基に、学習を進められるように体験活動の充実を図る。	
---------------	---	--	--

(様式3)

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策および補充指導等の計画

5年

小14 練馬区立仲町小学校

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
国語	<p>○新出漢字は、宿題などで学習を進めているが、定着については個人差が大きい。</p> <p>○長文読解では、細かく段落ごとに分けて丁寧に学習していくが、全体をつかみ要旨をまとめる学習もしていく。</p> <p>○作文は児童が興味・関心をもてる題材を用意すると効果的であった。</p>	<p>○音読、黙読を繰り返して行い、内容理解・漢字の読み・言葉の使い方の学習に生かす。</p> <p>○書く学習では、課題の出し方を工夫し、構成などを具体的に示す。(また、タブレットを活用し積極的に行う。)</p> <p>○作文を書く機会を増やす。互いに読み合ったり、聞き合ったりする場を設定し、様々な表現を取り入れられるようにする。</p> <p>○主語・述語を明確にして話すようにさせ、聞く側も、相手の言いたいことを考えながら聞くように指導していく。</p>	<p>○日常的に読書をする習慣を身に付けさせる。</p> <p>○読書の記録などを活用し、日頃から読書に親しむことができるようにする。</p> <p>○漢字の小テストを積み重ねることにより、漢字の定着を図る。</p> <p>○国語辞典・漢字辞典を活用し、適切な語彙を選択できるようにしたり、語彙を増やしたりできるようにする。</p> <p>○朝のモジュール学習を活用し、漢字や言葉の定着を図る。</p>
算数	<p>○授業で学習したときは、大体理解できても、時間が経つと忘れてしまい、学習内容が定着しない児童がいる。</p> <p>○文章問題を取り組むときに「分かっていることと求めること」に整理しても、自力解決できない児童がいる。</p> <p>○自分の考えを言語化することが苦手な児童がいる。</p> <p>○九九を完全に覚えていなかったり、四則計算に関する計算などが苦手だったりする児童がいる。</p>	<p>○既習内容の復習を反復して行う。</p> <p>○教科書の適用問題だけでは、文章問題の経験が少ないときには、他の問題にも取り組ませ、習熟を図る。</p> <p>○操作活動を取り入れたり、実際に目で見たりすることができるような教材を活用したりして、実感を伴った理解ができるようにする。</p> <p>○自力解決が難しい児童には、既習事項やヒントカードを提示し、個に応じた支援を行う。</p> <p>○考えを図や式、言葉で表す活動を取り入れ、学習内容の定着を図る。</p> <p>○考えをまとめたり、発表したりする力を身に付けさせる活動をホワイトボードや電子黒板、タブレット等を活用して充実させる。</p> <p>○考えたことを整理し、順序立てて話す力がつくよう、話す機会の場を多く設定する。</p>	<p>○朝のモジュール学習や家庭学習で、タブレットも活用しながら反復練習に取り組ませ、学習内容の定着を図る。</p> <p>○レディネステストの結果を基に習熟度別指導を行い、児童の実態に合った学習が進められるようにし、学習の定着を図る。</p> <p>○学期に1回ずつに東京ベーシックドリルの診断テストを行う。また、それを基にプリントを使って、前学年の学習の復習を行う。</p> <p>○ペアやグループ学習を継続して取り入れ、説明が苦手な児童にも、友達の説明を聞いたり、ノートを参照したりして、少しずつ自分の考えを話せるようにする。</p>

		<p>○思考を深めたい授業などでは、計算機を使用するなど計算の負荷を軽減できるよう工夫する。九九や基礎的な計算が苦手な児童には、個別に課題を出して定着を図る。</p> <p>○課題把握をする際には、既習内容を確認し、それらを生かして見通しを立たせることを多く設定する。</p>	
<p>総合的な 学習の時間</p>	<p>○身近な地域を自分の学習や経験を生かして見つめ、自らの課題を設定する力を伸ばしたい。</p> <p>○計画・実行・振り返りの過程にそって主体的に解決する力を伸ばしたい。</p>	<p>○児童の生活経験や思考の流れに沿って、導入部分を考え、児童の考えを中心に単元構成をしていく。</p> <p>○体験や見学を取り入れ、主体的に課題に向き合えるようにする。</p> <p>○児童の振り返りを交流、発表する場面を多く取り入れたり、それらを通して自分の考えを再構築したりすることを意図的に設定する。</p> <p>○児童の感じたことや考えたこと及び学んだことがいつでも振り返ることができるように掲示板に残したり、タブレットを使って共有できるようにしたりする。</p>	



(様式3)

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策および補充指導等の計画

6年

小14 練馬区立仲町小学校

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○語彙が少なく、練習した漢字や調べた言葉を実際に使う学習が不足している。また、定着については個人差が大きい。</li> <li>○自分の思いや考えを表すことを苦手に行っている児童が多いが、書く時間を十分に確保できていない。</li> <li>○話し合いにおいて根拠を明確にして、意見を言うことができる児童に限られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音読練習を繰り返して行わせることで、内容理解・漢字の読み・言葉の使い方の学習に生かす。</li> <li>○多様な学習場面で新しく覚えた言葉を意識させ、積極的に使わせるようにする。</li> <li>○学習の中で児童の実態に合った題材を用意して、作文を書く機会を増やす。互いに読み合い、相互評価する活動を取り入れる。</li> <li>○話し合いの活動を通して、それぞれの考えが深められるように、一人一人が考えをもち、話し合いに参加できるように学習を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○火曜日を読書の日とし、日常的に読書をする習慣を身に付けさせる。</li> <li>○毎日の家庭学習で漢字の練習に取り組ませる。</li> <li>○漢字の小テストを行う。また、学期に2回まとめの漢字テストを行い、一定の点数が取れるまで、繰り返し取り組ませる。</li> <li>○国語辞典や漢字辞典を活用し、適切な語彙を選択できるようにしたり、語彙を増やしたりできるようにする。</li> <li>○書いた文章を友達と見合うことで、互いに推敲し、よりよいものを作れるようにする。</li> <li>○朝のモジュール学習を活用し、漢字や言葉の定着を図る。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習時、意欲的に取り組める児童と、私語が多く、集中が途切れやすい児童の二極化が目立つ。</li> <li>○授業で学習した時は大体理解できても、時間が経つと忘れてしまい、学習内容が定着しない児童がいる。</li> <li>○四則計算や小数に関する計算、分数の計算が苦手な児童がいる。(かけ算九九が覚えきれていない、繰り下がりのある2位数－1位数の計算、繰り上がりのある2位数＋1位数の計算や、わり算の筆算では商をいくつ立てたら良いか、考えるのに時間がかかる、分数の計算の加法、減法と乗法、除法の計算の仕方が混同してしまう等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時のめあてと学習内容を明確に示す。</li> <li>○導入では児童の興味を引き出し、既習事項を想起させるような発問をする。個別学習が充実するように時間や場を設ける。</li> <li>○単元の導入では、既習事項を復習できるように場面を設定する。</li> <li>○九九や基礎的な計算が苦手な児童には、個別に課題を出し、既習事項の確認を行ったり、確認テストを行ったりして、繰り返し取り組めるよう定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の進みが早いコースでは、発展的な問題に挑戦させる。習熟度別の形態の授業を活用し、児童の実態に応じた取組をする。</li> <li>○朝のモジュール学習を活用し、学習内容の定着を図る。</li> <li>○タブレットのドリルパークを活用して、家庭学習でもすすんで取り組めるようにしていく。</li> <li>○レディネステストの結果を基に2クラス3展開の習熟度別指導を行い、学習問題や学習課程を工夫し、学習の定着を図る。</li> </ul>

	<p>○知識・技能や思考・判断・表現の指導で文章による理解が難しい児童への支援が不十分である。</p>	<p>○考えをまとめたり、発表したりする力を身に付けさせる活動をホワイトボードや大型モニター、タブレット等を活用して充実させる。</p> <p>○自力解決が難しい児童には、既習事項を提示したり、ヒントカードを与えたりして、個に応じた支援を行う。</p> <p>○計算が苦手な児童には、必要に応じて九九表を渡し、計算の負荷を軽減し思考を深められるよう支援する。</p>	<p>○学期に1回ずつに東京ベーシックドリルの診断テストを行う。また、それを基にプリントやタブレットを使って、前学年の学習の復習を行う。</p>
<p>総合的な学習の時間</p>	<p>○身近な地域を自分の学習や経験を生かして見つめ、自らの課題を設定する力を伸ばしたい。</p> <p>○計画・実行・振り返りの過程にそって主体的に解決する力を伸ばしたい。</p> <p>○課題解決に迫る様々な手段を知らない児童が多く、インターネットに頼りがちである。</p>	<p>○フィールドワークや体験活動を行う場面を設定し、主体的に取り組めるようにする。</p>	